

2018 定期戦勝利に思う

素晴らしい生徒諸君との出会いに感激

築高の精神は勝って負けても「臥薪嘗胆」

4月26日（木）、59回目を迎えた築館高校と古川高校の定期戦が、古川高校を主会場として行われました。手に汗握る熱戦の末、築館高校が6勝5敗で4年ぶりの勝利を収めることができ、天にも昇る感激を味わうことができました。報告会終了後、胴上げされ、6回も宙に舞ったことは、教員として大きな勲章をもらったように感じました。

昨年の定期戦敗戦では、こんなに悔しい思いをしたのは久しぶりで、心の奥底から苦々しい思いがこみ上げてきたことを思い出します。何としても、生徒諸君に勝利の感激を味わわせたいと思い、昨年12月に運動部のキャプテンを集めて、「冬場の練習を大切にしたい。冬場の練習の成果が雪が溶けた4月に表れる。」と檄を飛ばしました。私の呼びかけにしっかりと答えて、厳しい練習に耐え、粘り強いチームを作ってくれた選手たちに心から感謝します。1年生には、入学後厳しい応援練習に耐え、先輩、先生方を信じてついてきてくれたことに対し、勝利というご褒美で応えることができ、ほっとしたとともに、築館高校の心意気を十分に感じてもらえたと思っています。

今回の定期戦勝利は築館高校にとって大きな飛躍を予感させる成果です。これまでの対戦成績は、16勝40敗3引き分けであり、圧倒的な古川高校の強さに辛酸をなめ続け、古川高校に負けることに諦めさえ持っていた生徒がいたと思います。確かに総合力は古川高校の方が築館高校より上かもしれません。しかし11種目の運動部の対戦で決める勝敗では、築館高校が勝つ方法が必ずあると信じていました。前日の壮行会で、試合では流れを持っていくことが何よりも大切であることを話していたので、選手たちが流れを持ってこようと試合の出だしから粘り強く必死に戦っていた様子に心打たれました。諦めないで戦い続けた選手たちに最高の賞賛を送ります。

ただ最後にあえて言うておきます。今回の勝利は築館高校にとって大きな出来事ではありますが、築高生は、勝っても負けても「臥薪嘗胆」を背負って生きることが宿命です。負けたときのくやしさを決して忘れることなく、何度失敗しても果敢にチャレンジしていく精神を持ち続けなければなりません。築館高校の目標は高く、どこまでも高みを目指すことです。

今年は勝つことができましたが、古川高校がこのまま引き下がっているはずはありません。今年の雪辱のために来年は築館に乗り込んできます。築館高校が2連覇、3連覇して初めて古川高校と対等に戦える学校になったと言えると思っています。油断なく来年に備え、必ずや返り討ちにしてやろうではありませんか。築館高校の本当の力を見せつけてやりましょう。



臥薪嘗胆